

関東良陵だより

東北大学関東良陵同窓会

平成二十二年関東連合会総会開催

平成二十二年関東良陵同窓会総会（正式には東北大学良陵同窓会関東連合会）は、平成二十二年六月十九日、午後四時三十分から、東京市ヶ谷アルカディアで開催された。今回も前年同様、総会開始前の午後二時から関東良陵教職員会が同会場別室で開催された。（後述）

総会に先立ち物故会員十九名に対し、黙祷を捧げた後、高橋会長から本年は関東良陵同窓会に六名の新任教授が誕生したこと、東北大学本部良陵同窓会費が明年度から八千円に値上げになること、関東良陵同窓会費は三千円に据え置く方針であるが、会費納入率が約十パーセントと極めて低く、会費納入率アップ対策が必要であることなどの報告があり議事に入った。

新田幹事長、根本副幹事長からこの一年の経過報告、関東良陵役員会報告、田中女子部会長から昨年度の部会報告があった。岩瀬会計担当幹事からは、本年度は会費納入率が約十パーセントと極めて悪く赤字決算であると会計報告があった。

引き続き、午後五時から特別公演「科学の進歩と真相究明」と題して押田茂実、日本大学法医学部教授（本会副会長、東北大、昭42年卒）から、足利事件のにおける先生のDNA型鑑定で菅家氏が無罪となる経緯について

極めて興味ある講演があり、会員一同大いに感銘を受けた。

午後六時から懇親会に移り会員の近況報告などあり、続いて例年恒例のアフター・ディナー・コンサートが行われた。今回は、日本フィルハーモニー・ヴァイオリン奏者、仙台市出身の斎藤千種さんの名演奏に一同酔いしれた。最後にはアンコールとして、九十二歳になられた神津康雄前会長の力強い歌声と共に「荒城の月」が演奏され、会は盛会の内に終了した。（文責 高橋俊雄）

総会プログラム

日時 平成二十二年六月十九日（土）午後四時より

場所 市ヶ谷私学会館アルカディア四階

関東良陵教職員会開催 午後二時から同四時まで

黒木登志夫先生（昭和三十五年卒）

「大学病院の危機見捨てないで」

総会 午後四時三十分開会

特別講演 演題『科学の進歩と真相究明―DNA鑑

定と足利事件』

講師・押田茂実先生（昭和四十二年卒）

懇親会 午後六時頃より開会

アフターディナーコンサート

ヴァイオリン・斎藤千種さん（後述）

* 会費納入のお願い

会費納入率が低く年間の赤字が出ています。未納の方は、同封の振込用紙にてお願いします。なお、八十歳以上の方で会費免除をご希望の方はお申し出下さい。



2010/06/19

写真上↑

平成22年東北大学関東良陵同窓会の総会に出席した諸先生の集合写真。
於・市ヶ谷アルカディアの会場にて

アフターテイナー・コンサート感想♪

良陵会員を酔わせた名演奏！

恒例のコンサートは、仙台出身の美しいヴァイオリニスト斎藤千種さんの演奏にうっとり全員が魅了された。

特にクライスラーのウィーン情緒に溢れた名曲はテクニクが難しいが、曲想を掴んで技巧的な部分がよく表現されて素晴らしかった。

会員のテーブルの傍まで来て弾きウィーンの会場にでも居るようなすてきな演出も良かった。

最後の荒城の月は、神津先生の歌唱も入り、会員全員の盛大な拍手が耳に残った。

平成二十三年総会の特別講演決定

首題の特別講演は、細谷亮太先生に依頼しております。

*細谷亮太先生は、昭和二十三年生まれ、山形県のご出身で、昭和三十八年（1972年）東北大学医学部を卒業、聖路加病院小児科に勤務。

1978年から米国・テキサス大学MDアンダーソン病院癌研究所に勤務（二年間）、その後、帰国して聖路加病院に復職。

現在、聖路加病院副院長。小児科医療センター長。

先生は、小児科を三十八年間担当されご専門は「小児がん」です。

東北大学良陵同窓会
関東連合会教職員会
開催される

平成二十二年度東北大学関東
良陵教職員会(教授会)は、平
成二十二年六月十九日(土)午
後二時から、市ヶ谷アルカディ
アで開催された。

出席者は、押田茂実世話人を
はじめ首都圏大学の教授、准教
授、講師など二十余名。

まず、押田茂実先生から前年
に引き続き本会を開催する主
旨の説明があり、本年は関東良
陵同窓会に六名の新任教授(酒
井寿郎(東大)、安田宏(聖マリ
アナ医大)、奥山隆平(信州大)、
井口篤志(埼玉医大)、石龍徳(東
京医大)、千田雅之(独協医大))
が誕生したことが報告された。

これは大変に嬉しい限りであ
り、今後もどんどん本会から教
授が輩出することを願うの挨拶
があった。

引き続き、四名の先生から
講演を頂いた。

トップバッターとして黒木登
志夫先生(前岐阜大学学長、東
大名譽教授、東北大昭和三十五
年卒)に「大学の危機見捨てな
いで」と題して特別講演を頂い
た。先生は、東北大学抗研(現・
加齢研)で、世界初の試験官内
発癌に成功され、東大医科研
教授、昭和大分子生物学研究所
長を経て、岐阜大学学長を勤め
られた。そして全国ベストテン
学長にも選ばれた方である。

先生の近著「落下傘学長奮闘
記―大学法人の現場から―」は
多くの教育関係者から絶賛を浴
びているが、今回は大病院の
財政危機について、わが国の医
療崩壊とも繋がる問題としてご
講演を頂き、集まった関東良
陵・大学教職員に大きな感銘を
与えた。

次に、飯野正光先生(東大教
授、副医学部長、東北大昭和五
十一年卒)から、ご講演を頂い
た。先生は、昨年所用のため、
ヴィデオによる出演であったが、
本年は多忙の中、ご出席を頂き

「東大医学部における基礎研究
者養成プログラムその後」と題
して、東大医学部基礎教育、研

究の問題点などについて述べら
れた。

また、最近の先生の研究成果
として、中枢神経系における主
要な神経伝達物質であるグルタ
ミン酸による伝達は、シナプス
周囲にも拡がっていくものであ
ることを初めて示された。

次に、安田宏先生(聖マリ
アナ医大消化器内科教授、東北
大昭和五十九年卒)から「これ
までの経過と新任の抱負」と題
して、これまで関東良陵同窓会
若手会幹事としての当会への貢
献を頂いたこと、先生のこれま
での消化器内科での臨床研究、
今後の抱負などについて述べら
れた。

最後に、若手の星として、柳
澤隆昭先生(埼玉医大、脳脊椎
腫瘍科・小児脳脊椎腫瘍部門、
准教授、東北大昭和六十二年卒)

から、先生の専門分野である
小児脳脊椎腫瘍の研究業績につ
いて、ご講演を頂いた。

この分野は、わが国では研究
者が少なく、先生のご研究は国
際的にも、高い評価を受けてお
り、研究のますますの発展が期
待された。

以上、二時間半がアツと言う
間に過ぎ、明年も開催されるこ
とを期待して午後四時三十分
閉会となった。

(文責 高橋俊雄)

「関東良陵だより」並びに「関東
良陵同窓会HP」への情報提供の
お願い

関東良陵だよりは、これまで
会員の皆様にさまざまな情報を
提供して参りました。また、東
北大学良陵同窓会関東連合会の
ホームページは、本部良陵同窓
会のHPに先駆けて平成十七年
に開設され、現在まで約一万件
に及ぶ多くのアクセスがありま
した。

今回、内容を充実するため、
会員各位の情報(教授就任、叙
勲、新規開業、就職希望、移動
など)を募集することに致しま
した。東北大学良陵同窓会関東
連合会東京支部(四頁最後)ま
で情報をお寄せ下さい。

採否は、会長と事務局にお任せ
下さい。皆さまの貴重な情報の
ご提供をお待ち致しております。
(東京支部 事務局)

第十三回女子部会開催

田中佐喜子

恒例の第十三回女医部会は、去る七月十日(土)午後五時より 東京・麹町、FM東京「J E T S T R E A M」にて開催されました。

今回は、皇室ジャーナリストとしてご活躍の渡辺みどり先生(文化女子大客員教授)をお招きして『人生の贈り物』と題するご講演を拝聴し、出席した十五名の女医先生方のご好評を頂きました。

渡辺みどり先生は、早稲田大学を卒業後、日本テレビに入社されました。

当時はテレビ時代幕開けで、民放開局から六年。正式入社的女性は、同期でアナウンサー一人という時代だったとのこと。

入社三年目に皇太子(現天皇陛下)御成婚パレード中継があり、その時から今日まで、皇室関連の報道を手がけられた由。

一九三四年生まれの渡辺さんは、美智子妃殿下と同一年で、

自身の高校時代の友人が、美智子さまと大学で同級生であったとの関係から、美智子さまについての(親しみと尊敬の念をもつて)文庫本を二冊も出版されておられる。また、制作した番組『がんばれ太平洋』シリーズは、一九六六年から二五年間に十六本に及び、常に二十%以上の高視聴率で、八十年には民放連盟賞テレビ社会部門最優秀賞に輝いています。

入社十三年目には同期の男性職員が昇給、昇格しているのに、自分だけ(女性)昇給、昇格が無かった為、辞める覚悟で、当時の社長に手紙を書き、窮状を訴えた事もあったとの事で、当時の男性中心の社会の中で、女性として、自立のために努力されて、まさに奮闘活躍なされたその勇氣に、現在の女性医師の置かれている立場と重ね合わせその女性としての生きざまに感動したものです。

現在、文化女子大の客員教授として、若い女性に自立心を植え付けるべく、女性論、ジャーナリズム論を講義され、ご活躍なされておられます。

逝去会員(敬称略)

平成二十二年六月現在		
近藤正人	S 25卒	産
御簾納幸次郎	S 20内	
古澤晃宏	S 43	内3
佐藤守雄	S 23	放射
高橋益夫	S 19	眼
藤本憲司	S 22	整形
加藤暢三	S 18	外科
羽山督太良	S 37	外1
清水聡一	S 25	外1
大久保隆男	S 33	内1
吉野裕	S 52	
花岡典夫	S 17	生1
阿部十郎	S 21	衛生
新庄得甫	S 20	歯
大江博恭	S 24	内
姉齒一彦	S 55	
齋藤博	S 22	産人
池内宏	S 24	整形

人事異動

嘉山孝正先生(昭和五十年卒) 国立がん研究センター(旧国立ガンセンター)の初代理事長に本年四月一日付で就任された。専門は脳神経外科学(とりわけ脳腫瘍)。近年日本の医療政策に関して積極的に発言している。

『良陵』

この意味をご存じてすか?

良陵の謂われ

良陵(こんりょう)という言葉は東北の丘という意味である。大正五年、第二代総長、北条時敏によって医学部学友会に対し名付けられたものである。良の字はもともとは目を光らし身を背けて戻るという意味が転じて止まる、という義である。

また方角を表す文字として用いられ、うしろら、東北方、鬼門を指す。従って良陵は、首都東京から東北地方にある学問の聖地として堅固なる丘を示すものなのである。(大隈典子の仙台通信より)

出典は『良陵の教授たち―東北大学における医学教育の源流』医学部名誉教授、桜井実先生著・金原出版

東北大学良陵同窓会

関東連合会東京支部
〒247-0072
神奈川県鎌倉市岡本
二・二・一・七〇四
TEL & FAX
〇四六七(四五)〇二八七